

【様式①】令和3年度 学校評価書(小・中・特別支援)

学校名 岐阜市立則武小学校
校長名 松岡 猛

市の重点項目	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
全職員や地域コミュニティとの協働による積極的な指導体制を確立し、「チームとしての学校」を実現する	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の民間企業のマネジメントを学校運営に取り入れ、各種団体や中学校区の関連機関と本校職員との連携を深めたりして、地域全体で子どもたちを育むコミュニティ・スクールの充実を目指す。 ・学校ホームページや保護者配信メールを活用し、教育方針や行事、児童の活躍を積極的に情報配信することで、地域との情報共有や子ども達を共に育てる意識を高める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会、支援推進委員会、地域各種団体の教育力を学校の活動の中に積極的に取り入れ、授業をはじめ生活指導も含めて、子どもを育てる気運を高めることができた。 ・校長のリーダーシップのもと、全職員の協力体制を確立し、スクールカウンセラーや「エールぎふ」など外部機関との連携も図りながら、チーム学校としての体制を強化した。 ・登下校見守り隊の活動を年間通して継続することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人に求められる能力が昔と違ってきており、これからの社会ではチームで仕事をすることが求められている。本校では全職員が一丸となって「学び合い」の授業に取り組む姿勢が印象的であった。 ・各種団体や中学校区の関連機関との連携を深め、児童を育む地域の教育力を学校の教育活動に取り入れる努力の跡が見られた。(JAや地域の方との交流による大根作りや子ども見守り隊の活動等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中、来年度の活動も今年度のように制限せざるを得ないことも出てくるが予想されるが、できないことをマイナス面で見えるのではなく、どうしたら活動を停滞しないで発展させていけるかを考え、工夫していくことを大切にしたい。 ・外部機関との連携を積極的に進め、校長のリーダーシップのもと、「チーム則武」で子どもの育成に努める。
学習指導要領の趣旨を十分に踏まえた社会に開かれた教育課程を編成・実施・評価し、教育効果の最大化を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特色を組織的・系統的に教育活動に位置付け、主体的・対話的で深い学びを視点にした授業改善に取り組む。 ・学校評価の内容・方法の見直しと活用を推進し、教育効果の最大化を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・算数科や社会科の時間や総合的な学習の時間において、「学びの共同体」「サークル対話」の理念を取り入れた授業の創造を行い、学校全体で授業改善に取り組んだ。 ・「めざす授業」の具現に向けて、オンライン授業を積極的に取り入れ、ICTの活用にも力を入れた。また、聴き合い、学び合うことができる授業形態の工夫(ペアやグループ)の意図的な活用を行い、言語活動の充実を目指した。 ・SDGs教育の推進や異年齢交流による自治活動の充実を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の主役は子どもであり、どの学級も子どもが元気で明るい雰囲気があった。また、新しい取組の自由進度学習やスタディアプリの活用など、先進的な取組が見られた。新しいことを取り入れる姿勢を大いにしたい。 ・めざす授業の実現に向けて、子どもたちがICTを活用した子ども集中して授業に取り組んでいる姿が素晴らしい。今後も「学び合い」の研究をどんどん進め、子どもの主体性・協調性を育てていってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特色をふまえてカリキュラムの見直しを図るとともに、PTAおよびクラブと連携し、地域行事などへの参加意欲を高めていく。 ・学校全体で「学びの共同体」の理念を取り入れた授業の創造を行い、教科の本質に迫る深い学びを実現し、各学級の「めざす授業」に向かう取組を充実させていく。 ・ICTの活用を積極的に行い、スキルを高め発展させる。
幼保小連携や小中一貫の考えのもと、ソーシャルキャピタルを活用した学校づくりを推進する	<ul style="list-style-type: none"> ・各種教育機関(幼・小・中・高・大・企業)との円滑な接続について考え、学校・地域・家庭との連携や地域人材バンクの充実を図る。 ・支援推進委員会(学習・安全・図書)の活動を充実させ、登下校見守り隊の活動推進や学校給食の地域産業の連携など、地域人材を活用した活動を目指す。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会や支援推進委員会を定期的実施し、学校・地域・家庭との連携を図った。 ・高学年毛筆学習、高学年理科授業支援、総合的な学習の時間(防災学習)等の分野で、ゲストティーチャーを活用した。 ・白川郷学園や岐阜北高校等とオンラインによる積極的な交流ができた。 ・岐大と連携し、ACPを実施し、体力向上させることができた。 ・今後幼保小の連携をさらに充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・岐阜大学と連携したAction Child Programは、コロナ期でも子ども達が楽しみながら運動量を確保していく素晴らしい方法だと感じた。研究でもしっかりと運動量が確保されていることが証明され、今後も継続していってほしい。 ・地域の専門職者を、ゲストティーチャーとして学校の教育活動に積極的に活用しているのがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援推進委員会の活動を充実させ、地域人材を活用した活動を更に工夫する。(地域人材バンクを充実させる) ・来年度も校区の幼稚園・保育所代表者や民間企業の経営者を学校運営協議会の委員に加え、幼児教育の重要性をふまえた幼保小連携の強化や民間企業のマネジメントを取り入れていく。 ・人間性は人でしか磨けないので、人と人とのコミュニケーション、支え合い、励ましを大切にした活動を推進する。
教育環境と学校財務環境を整備・管理し、有効に運用する	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもにとって安心して学びやすい環境づくりのために、ユニバーサルデザインの視点で校内の環境整備を進める。 ・教科等備品の整理整頓やICT活用推進による業務の効率化に心がけると共に、公金を子ども達の健全な発達のために適切かつ有効な活用に努める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインなどICTの活用により子どもを取り巻く世界を広げることができた。 ・備品点検を定期的実施し、無駄なく予算を執行して、重要・必要な物から購入することができた。 ・担当特別教室や学習室など、不要品を廃棄し、使いやすいうように環境整備を進めてきた。 ・廊下や玄関には、子どもの作品や取組の様子が分かる物を掲示し、子どもの意識を高めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中欠席者もいて、集中しない場面も想定される中、オンラインの授業に先生方も子ども達も慣れており、双方に一体感がありとても集中していた。 ・ブレイクアウトルーム等、様々な技を駆使して、子ども達の興味・関心が高まっていることがよくわかった。 ・学校内や教室内の掲示物に、日々の取組の足跡が感じられるものが多い。また、お互いのよさを見つける掲示が多く、子どもに思いやりの心を育成することにつながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が安心して学べる環境を整えることを第一に考え、備品を計画的に購入する。 ・限られた予算の中で必要な備品購入、修繕を進めるようにするために、適正な会計処理に努めるとともに、用紙等を節約したり備品等を丁寧に扱ったりする意識をもちたい。
災害や事故等、多種多様な非常事態に対する安全性の確保をする	<ul style="list-style-type: none"> ・「命を守る訓練」「防災教育」の内容を工夫し、多種多様な非常事態を想定した危機回避能力を育てる。 ・常に危機意識をもち、いじめ対策や挨拶指導、交通安全指導等、安心・安全な学校づくりのために、学校・保護者・地域が共に連携し、積極的かつ継続的に指導を進める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・県教委の学校安全指導者派遣事業を活用したり、PTA成人委員会との連携を図ったりして、外部講師による防災・減災学習を進めた。 ・安全点検を確実に実施し、子どもの目線に合った危険だと思われる箇所については、すぐに対応した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発言をした人に頷いたり、拍手をしたり、とても和やかな雰囲気、あたたかい人間関係が感じられた。 ・心のアンケートの結果から、子ども達は内面的には違う面をもっていることがわかる。教育相談等で内面のケアをしていく必要がある。心の健康を保つために、教職員にも心のアンケートを実施してはどうか。 ・ITの発展と共に、子ども達の人間関係をどう作っていくか、どう育んでいくかが今後の課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校で行う「命を守る訓練」では、大規模な地震・火災・水害等を想定し、実践的な訓練を実施する。また、各教室からの避難経路を再確認し、経路図の見直しを行う。 ・PTAや地域と協力し、「防災・減災教育」を実施する。 ・今年度発足した登下校における「子ども見守り隊」の活動を、来年度も地域と連携してより一層充実させる。 ・全教育活動において子どもの人権意識を高め、いじめの防止等のための対策を継続的に行う。

HPアドレス:

<http://cms.gifu-gif.ed.jp/noritake-e/>